

## 『わたしたちの新潟県』の使い方

『わたしたちの新潟県』は、3,4年生のみなさんが楽しく学習できるように、次のようなくふうがされています。

- 地図に書きこむなどして、作業をしながら学ぶことができます。
- **📱**があるページは、デジタルコンテンツで写真や動画を見ることができます。デジタルコンテンツは、新潟県・新潟市小学校教育研究会と野島出版のホームページにあります。

※デジタルコンテンツ…文章・画像・映像などの作品をデジタルデータ化して利用できるものこと

新潟県・新潟市小学校教育研究会

<https://n-shokyoken.jp/>

野島出版

<https://shuppan.co.jp/>



- **📄**があるページは、QRコードを読み取ると、関連するホームページを見ることができます。(HPはホームページの略です)

また、「気候の様子」「産業の様子」など、5年生の学習に役立つページもあります。**5年**（5年生関連）

『わたしたちの新潟県』を使って、新しい発見をたくさんしてください。

### 【先生方へ】

新型コロナウイルス感染拡大により、各種統計資料にも影響が出ていることが考えられます。そのため、例年とは著しく違う数値になる内容については、最新のデータの使用を見合わせました。

- **👉**があるページは、指導事例があります。授業にご活用ください。

## 1

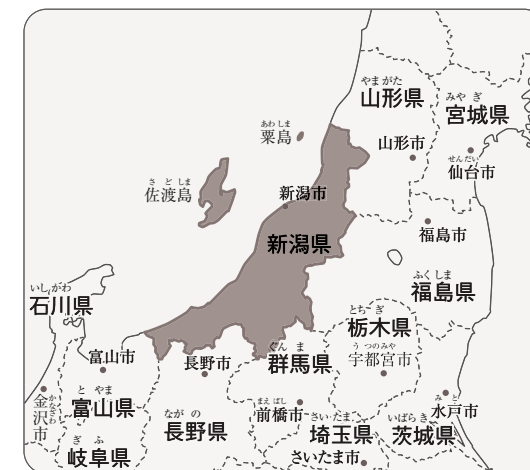
### わたしたちの新潟県の様子

新潟県の面積は約1万2600km<sup>2</sup>で、全国で5番目の広さです。

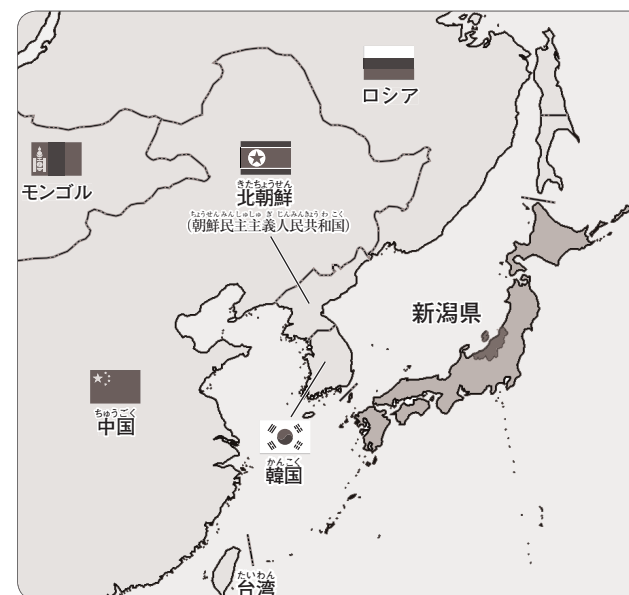
人口は約200万人です。

県の南部や東部は緑ゆたかな山々が連なり、そこから流れ出す川は平地をうるおしながら、日本海に注ぎます。中でも信濃川は日本一長い川として有名です。

夏の気温が高く、冬は山間部を中心に雪がたくさんふります。このような気候の特色から、夏は海水浴場が、冬はスキー場がにぎわっています。気温と湿度が高い新潟県の夏は米づくりに適しており、広い平野に広がる美しい水田に、おいしい米がたくさんつくられています。



新潟県と近隣の県



新潟県の近くにある国や地域の名前

古くから新潟県の人々は、ゆたかな自然を生かしながら、多くの産業をおこしてきました。昔から伝わる特産物の生産や、技術を生かした伝統的な工業、豊富な水を生かした化学工業や電子部品のような最先端の機械工業も、発展してきています。

# 1 自然の様子 指

## 新潟県を囲む山々

新潟県は、山形県など五つの県とせっしています。それぞれの県  
ざかいには、高くけわしい山々が連なっています。

自然がゆたかな山々は、カモシカなどの野生動物の大切なすみか  
にもなっています。この美しい自然を守るため、国立公園や国定公園  
などに指定されたり、さまざまな取り組みも行われたりしています。

山形県とのさかいには、( )山地と  
( )山地が、福島県から群馬県との県ざ  
かいには( )山脈が、長野県とのさ  
かいには( )山が、富山県とのさかい  
には( )山脈があります。このように  
新潟県は、まわりを山々に囲まれています。



新潟県とせっする県と、県ざかいの山々

## 川と平野と盆地

県ざかいの山々から  
は、多くの川が流れて  
います。また、下流に  
はいくつかの平野が広  
がっています。

新潟県でいちばん広  
い越後平野は、信濃川  
や阿賀野川などによっ

て、はるか上流から土  
や砂が運ばれ、長い年月をかけて形づくられました。しかし、土  
地がひくく、こう水にたびたびおそわれました。その後、大河津  
分水路がつくられるとこう水がへり、水田で、たくさんの米がつ  
くられるようになりました。

ほかにも、鯖石川と鶴川の下流にある柏崎平野、関川や保倉川  
の下流にある高田平野、佐渡島の大佐渡と小佐渡の二つの山地に  
はさまれた国中平野など、平野部ではゆたかな川の水を利用した  
米づくりがさかんに行われています。

山地の間を流れる川の中流には、盆地がひらけている所もありま  
す。盆地とは、まわりを山々に  
囲まれて、おぼんの底のよう  
に平らになった土地のことをい  
います。

その主なものには、荒川にそっ  
た関川盆地、阿賀野川にそった  
津川盆地、魚野川にそった六日



日本有数の米どころ越後平野(新潟市)



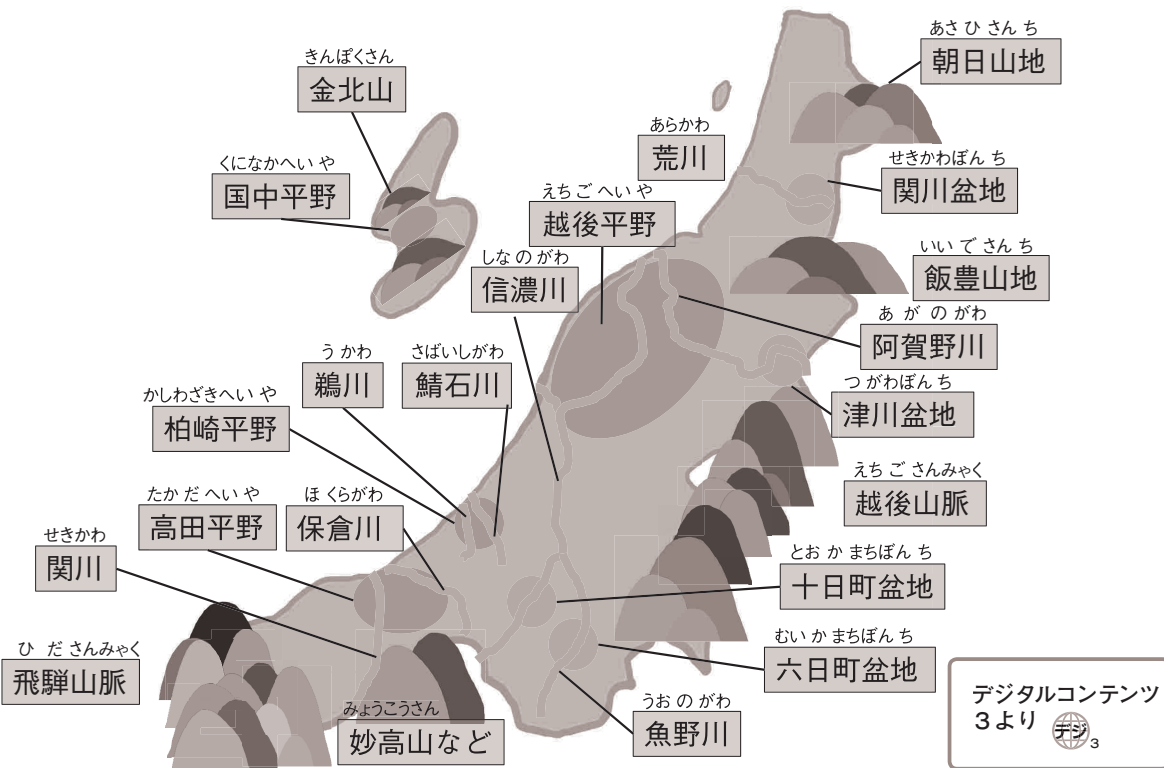
関川盆地の様子(関川村)

まち 町盆地，<sup>しなのがわ</sup>信濃川にそった<sup>とおかまち</sup>十日町盆地などがあります。

盆地には、<sup>かがんだんきゅう</sup>河岸段丘がよく見られます。河岸段丘とは、<sup>たい</sup>平らだった土地が、長い年月の間に川の流れてによってけずられたり、土地がもり上がったりすることをくり返しているうちに、<sup>かいだん</sup>階段のような形になった<sup>ところ</sup>所をいいます。信濃川の上流の<sup>つなん</sup>津南町では、6～9段もあるみごとな河岸段丘を見ることができます。



河岸段丘の様子（津南町）



自分の住む<sup>ちいき</sup>地域の<sup>とくしよく</sup>地形の特色をまとめましょう。

## 海岸付近の様子

新潟県の海岸線は、<sup>さどしま</sup>佐渡島と<sup>あわしま</sup>粟島ふくめて<sup>635.1km</sup>635.1kmあります。<sup>むらかみ</sup>村上市から<sup>いといがわ</sup>糸魚川市にかけては<sup>330.2km</sup>330.2kmあり、<sup>しなの</sup>新潟市から<sup>とうきょう</sup>東京都までと同じくらいの<sup>きょり</sup>距離です。

5 海岸の形は大きく岩石海岸と砂浜海岸に分けることができます。

岩石海岸が多く見られるのは、<sup>さどしま</sup>佐渡島と<sup>あわしま</sup>粟島、<sup>ささがわ</sup>笹川流れ、<sup>かしわざき</sup>柏崎の<sup>よねやま</sup>米山海岸、<sup>しやうえつ</sup>上越市の<sup>なだち</sup>名立区から<sup>おやしらず</sup>親不知の海岸などです。これらの海岸では<sup>あらなみ</sup>荒波が山や岩をけずり、美しいけしきが見られ、<sup>しぜん</sup>国定公園や<sup>しぜん</sup>県立自然公園になっている所もあります。

15 佐渡島では海岸段丘といって、海から切り立ったがけの上が平らな土地になっている所があります。

20 岩石海岸のほかは砂浜海岸になっており、<sup>むらかみ</sup>村上市から<sup>いといがわ</sup>糸魚川市までの海岸線の3分の2は砂浜海岸です。また、砂浜海岸には<sup>さきゅう</sup>砂丘が見られる所もあり、<sup>みおもてがわ</sup>村上市の<sup>かこう</sup>三面川の河口近くから<sup>かくだはま</sup>新潟市の<sup>つづ</sup>角田浜にかけては約70kmもの砂丘が続いています。



親不知の岩石海岸（糸魚川市青海）



せんかくわん 尖閣湾の海岸段丘（佐渡市相川）



せなみ 瀬波の砂浜海岸（村上市瀬波温泉）

越後平野を流れる川の水は、これらの砂丘にさまたげられて海に流れにくくなり、福島潟や鳥屋野潟など、たくさんの沼や潟をつくりました。



たくさんの白鳥が飛来する鳥屋野潟（新潟市）

沼や潟にたまった水を海に流し出すために、人々は苦労を重ねて砂丘を切りひらきました。越後平野や高田平野の海岸近くの水田の多くは、このようにしてできました。

越後平野には、福島潟や鳥屋野潟のほかに、わき水や雨水によってできあがった佐潟があります。佐潟は水鳥をはじめとしたさまざまな生きものがすみかとする大切な湿地であるため、ラムサール条約に登録されています。

注：ラムサール条約  
水鳥をはじめとして、さまざまな生きものがすみかとする湿地を世界の国々が協力して守ることを決めた条約。

### 佐渡島と粟島

新潟県には、日本海に二つの島、佐渡島と粟島があり、それぞれの島にはきれいにすんだ海や、めずらしい形をした岩石海岸など、美しい自然が残されています。佐渡島では国際保護鳥のトキ、粟島では天然記念物のオオミズナギドリを見ることがもできます。

	佐渡島	粟島
面積	855.68km <sup>2</sup>	9.78km <sup>2</sup>
人口	約5万人	約340人
海岸線	約281.8km	約23.1km



粟島にくらすオオミズナギドリ

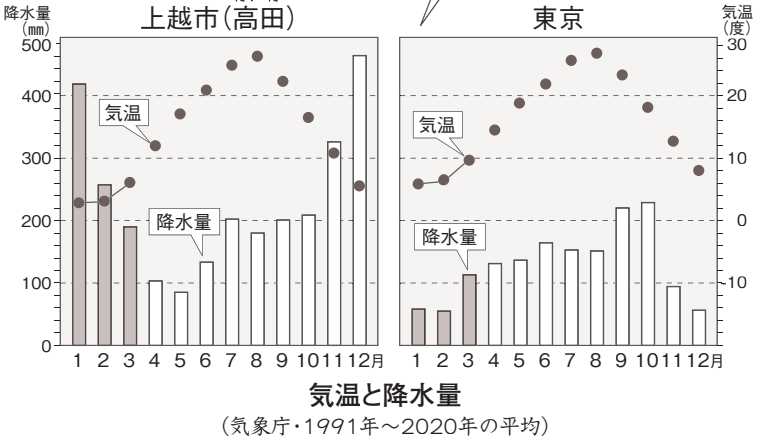
## 2 気候の様子 指

### 雪の多い新潟県

「国土の気候と地形の特色」

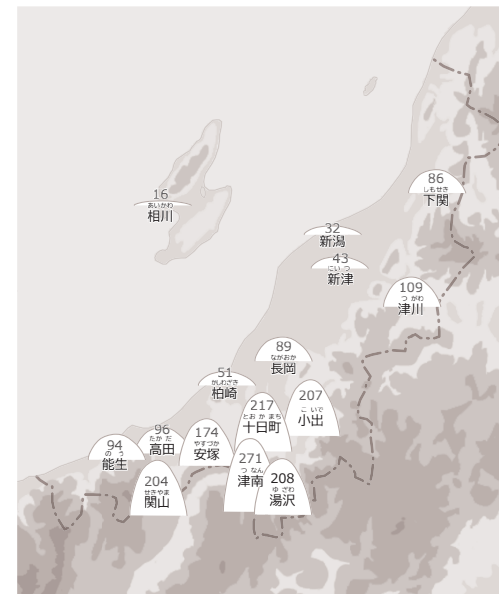
気温と降水量のグラフを完成させましょう。

新潟県は梅雨の終わりのころ、まとまった雨のふることがあります。この雨を集中豪雨といって、2004（平成16）年の「7.13水害」、2011（平成23）年の



「新潟・福島豪雨」のように大きな災害をもたらすこともあります。

冬には、雪がたくさんふります。上越市（高田）と、ほとんど雪の



県内の主な地点の積雪量（単位：cm）  
（新潟地方気象台・1991～2020年の最深積雪の平均）

ふらない東京をくらべると、冬の降水量のちがいがよくわかります。魚沼地域や上越地方は、日本でも積雪量の多い所として知られています。平地で2m以上、山地で4～5mも積もる所があります。記録をみると、これまでにいちばん多く積もった所は、魚沼市（栃尾又）です。1936（昭和11）年2月15日の観測では、7m8cmもありました（気象庁の記録）。

新潟県の雪は、しめり気が多く、重いのが特ちょうです。そのため、家がつぶされないように雪おろしをしますが、雪が自然に落ちるような屋根や、雪をとかすしくみのある屋根など、雪おろしをし

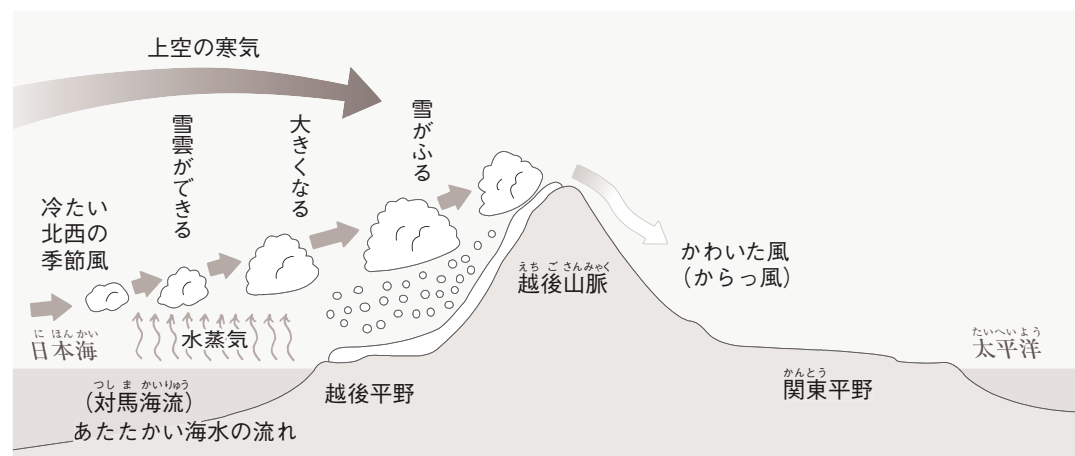
なくてもいいような家づくりのくふうもあります。また、道路や鉄道に積もる雪を、とかしたり、除雪したりして、人や自動車・列車が安全に通ることができるようにしています。こうした雪をとりのぞく作業は、昔から続けられてきました。

一方で、山地などにたくさん積もった雪はゆたかな雪どけ水として、米づくり・飲み水・発電などに欠かせないものになっています。

### 雪をふらせる季節風 5年「国土の気候と地形の特色」

冬になると、北西から強く強い季節風が多くなります。シベリアの方からふいてくる、冷たいかわいた風です。この風が日本海の上を通るとき、海から上がる水蒸気をいっぱいにくみ込みます。上空に寒気があると水蒸気をふくんだ雲は雪雲となり、山のしゃ面にそって上昇し、冷たくなって雪をふらせます。このようにして山地にたくさんの雪をふらせる場合を「山雪」とよんでいます。

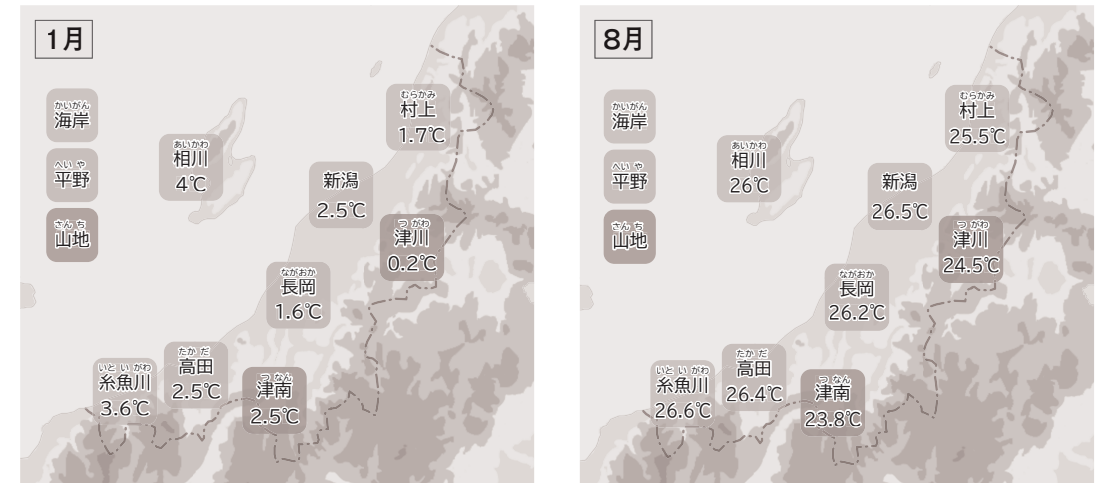
また、季節風が弱かったり、風向きが変わったりするときなどは、平野や海岸部にも雪がたくさんふることがあります。このような場合を「里雪」とよんでいます。



日本海側に雪が多くふるしくみ ④

### 気温とフェーン現象 5年「国土の気候と地形の特色」

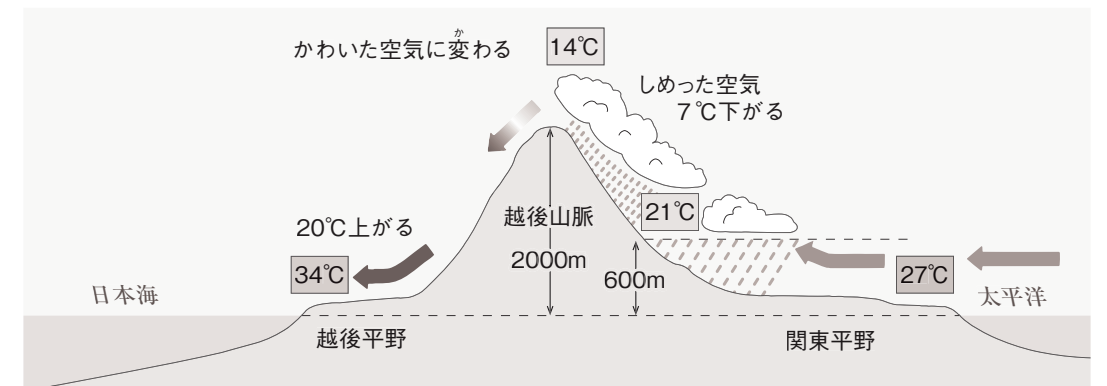
海岸・平野・山地など、様々な地形をもつ新潟県では、各地域で夏と冬とで気温のちがひがあります。



1月と8月の平均気温 (新潟地方気象台・1991～2020年の平均)

春から夏には、気温が急に上がることがあります。これは、太平洋からふいてきた風が山脈をこえるときに、かわいた高温の風になるために起こります。これを「フェーン現象」といいます。

夏には、非常に高い気温になることがあります。県内では、2018(平成30)年8月23日に胎内市(中条)で40.8°Cを記録しました。胎内市(中条)では、2019(令和元)年8月15日にも、40.7°Cを記録しています。



フェーン現象のしくみ (※気温は一例)

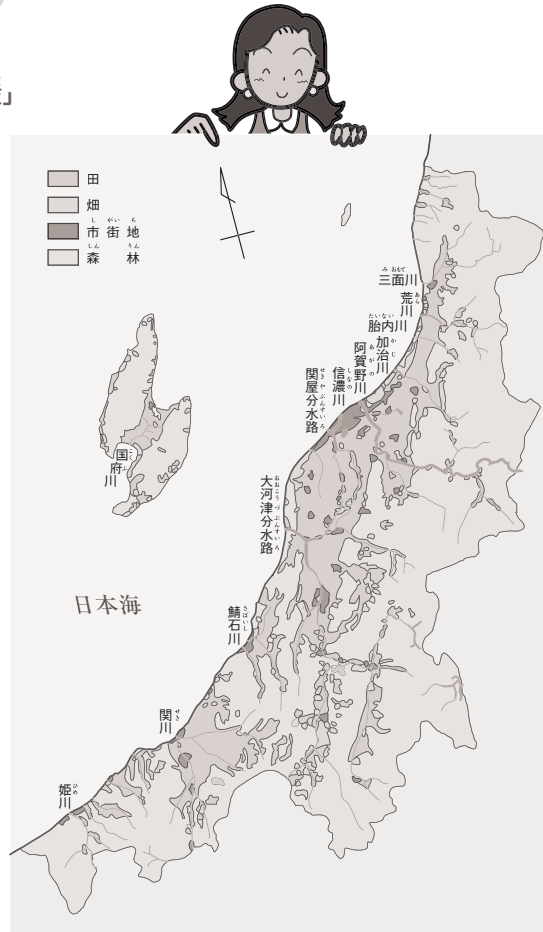
### 3 産業の様子

農業 指 5年 「未来を支える食料生産」

新潟県では、平地の大部分が田や畑（果樹園もふくむ）に使われています。広々とした平地とゆたかな水の資源を利用して、米・野菜・くだものなどのたくさんの作物が作られています。このほかに、牛や豚などを育てる畜産も行われています。

県内には、農家が約8万戸あります。これは、全国で4番目に多い数です。

農業は、新潟県の人々の暮らしをささえる大切な産業です。



新潟県の土地利用 (国土地理院20万分の1土地利用図 1982年より作成)

作物名	しゅうかく量	全国順位	作物名	しゅうかく量	全国順位
米	62万 t	1	えだまめ	4690 t	6
西洋なし	1790 t	2	だいず	7770 t	6
ゆり	1150万本	2	かき	8030 t	7
鉢物(花木類)	574万鉢	2	さといも	5160 t	7
球根	1330万球	3	もも	1630 t	7
すいか	1万7800 t	4	そらまめ	348 t	10

全国で順位の高い農産物 (農林水産省・2021年)

### 米づくり

新潟県は日本を代表する米の産地で、作付面積・しゅうかく量ともに全国一です。つくられる米の代表的なものにコシヒカリと新之助があります。コシヒカリはあまく、ねばりのあるおいしい米として全国に知られています。しかし、生育するとたおれやすいという弱点があり、農家では育て方をくふうしています。

新之助は、コシヒカリにくらべ大つぶで、新たなおいしさを追求し、2017(平成29)年に発売が開始されました。新潟県も、新之助のおいしさをPRしています。

近年、米づくりにかかわる人々が協力し合い、さらに安全で、環境にやさしい米づくりを研究したり、米づくりに人工知能(AI)やドローンを活用したりする取り組みも行われています。また、わかい人を米づくりなどの農業によびこむための取り組みもさかんになっています。



米づくりに活用されるドローン

品種名	作付面積の割合	備考
コシヒカリ	63.0%	うるち米
こしいぶき	16.2%	うるち米
ゆきん子舞	4.3%	うるち米
新之助	3.5%	うるち米
こがねもち	2.7%	もち米
わたぼうし	2.1%	もち米
ご百万石	1.5%	酒米
その他	6.7%	

新潟県の米の品種別作付面積の割合 (新潟県農林水産部・2023年)

最近では「新之助」の生産量もふえてきています。



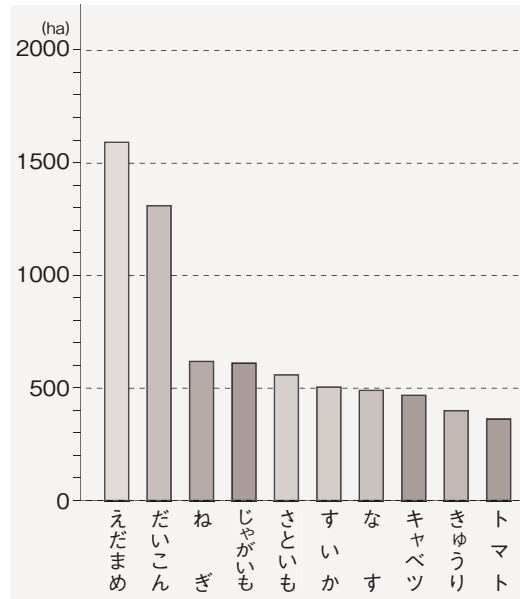
## 野菜づくり

野菜は、砂丘地や平野部、中山間地の一部でつくられています。えだまめ・すいか・ねぎ・だいこんなどは、県外でも人気があります。近年は、ジュースなどの食品の原料用の野菜さいばいがふえてきており、トマト・にんじんなどが生産されています。

また、ビニールハウスを利用して、きゅうりやトマトなどを長い期間出荷できるようにくふうしています。

2017(平成29)年には、新潟市の黒埼地区を中心にさいばいされる「くろさき茶豆」が、新潟県で初めて、ジージー(地理的表示保護制度)に登録されました。GIは、地域の持ちようを生かした産品を国がみとめる制度です。他にも、津南町の「雪下にんじん」や長岡市の「大口れんこん」が登録されています。

今後、これらの野菜が全国的にさらに有名になり、生産量がふえることが期待されています。



野菜をつくった土地の面積  
(農林水産省・2021年)  
※じゃがいもとキャベツは2019年



機械によるえだまめの取り入れ (新潟市)



ジージー  
GIマーク  
地理的表示保護制度



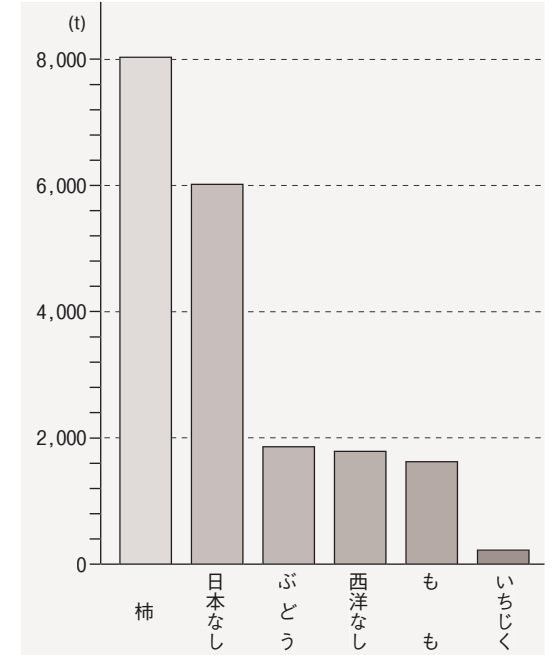
GI登録産品一覧

## くだものづくり

新潟県では、なしや柿・ぶどう・ももなどのくだものづくりがさかんです。

なしやももは、主に信濃川ぞいの新潟市南区や加茂市・三条市などで、柿は佐渡市や新潟市西蒲区で多くさいばいされています。

農家は新しい品種をとり入れ、よりよい土づくりをしたり、木が元気になるように手入れをしたりして、おいしいくだものを生産するようにくふうしています。西洋なしやいちじくなども人気が出てきて、さいばいする面積をふやそうとしています。



主なくだものしゅうかく量  
(農林水産省・2021年)  
※いちじくは2020年



西洋なしのさいばい (新潟市南区)



「ル レクチエ」  
(西洋なし)

### 花づくり

信濃川や阿賀野川の下流の地域は、花のさいばいがさかんで、全国でも有数の産地になっています。

なかでも、新潟市や五泉市・胎内市ではチューリップ・ユリ・アイリス・クロッカスなどの球根のさいばいがさかんです。



球根を育てるチューリップ畑（胎内市築地地区）

ユリなどの切り花は、魚沼市や津南町・村上市をはじめ、県内各地で生産されています。

また、さつき・アザレア・西洋しゃくなげなどの花や木は、新潟市秋葉区・南区を中心につくられています。

### ちく産

新潟県は、県内各地で牛や豚・鶏が家畜としてかわれています。農家は、くふうをして家畜を育て、おいしい牛乳や肉・卵を生産しています。



ちく舎で育てられている牛（三条市）

新潟県も「にいがた和牛」や「にいがた地鶏」などのブランドをつくり、おいしく安全な肉づくりや、売り上げをふやすことを目指して農家と協力した取り組みを行っています。



一定のきまりをクリアして、高い安全性が認められた農場に与えられるマーク



### 林業

新潟県の森林の面積は、約8600km<sup>2</sup>で県の面積の3分の2にあたります。森林には、自然に育った天然林（ブナやナラなど）と、人が植えて育てた人工林（スギなど）があります。

スギを育てるためには、苗を植え、下がり、間ばつなどの手入れをしなければなりません。新潟県の森林の5分の1は人が育てたもので、村上市などでさかんに育てられています。植えた木は、およそ50年以上たつと切り出されます。

### 木材の加工

切り出された木は、製材工場などで加工され、柱や板などの家をつくるための材料になったり、紙や家具などをつくるために使われたりしています。新潟県で切り出されたスギは全国的にも有名です。県内で使われている木材のうち約3分の1が県内産で、そのほかは新潟県以外の所や、外国のものです。



木を切り出す作業（村上市）



製材工場の様子（村上市）

8ページや16ページの図を見て、どんな所に森林が多いか調べてみよう。 (Illustration of a boy pointing)





### 森のめぐみ

森林からは木材だけでなく、きのこや山菜がとれます。細かくくだいた木を利用したまいたけやなめこなどのきのこは建物の中で一年中さいばいされています。とくにまいたけの生産量は全国第1位となっており、日本全体の半分以上の量を生産しています。



まいたけさいばいの様子 (南魚沼市)

また、木から木炭やまきなども生産され、わたしたちの暮らしに役だてられています。

### 森林を守る 5年「森林とともに生きる」

山にある森林は山くずれやなだれから、海岸にある森林は海風や砂から人家や道路を守るはたらきをしています。また、美しい森林では、多くの方が自然を楽しんでいます。

このため、とくに大切な森林は、法律で木を切ることに条件をつ



学校林の手入れをする緑の少年団 (糸魚川市下早川小学校)

けたり、手入れをしたりして守られています。

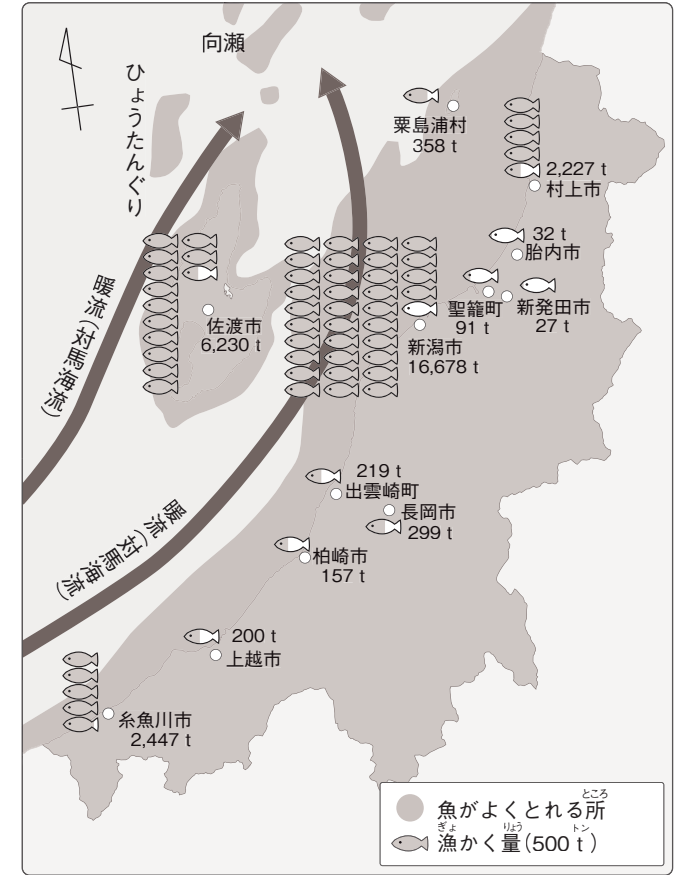
さらに、「緑の少年団」や「にいがた緑の百年物語」の運動などを通して、森林を守ることへの市民参加が行われるようになりました。



### 水産業 指 5年「水産業のさかんな地域」

### 海での漁業

新潟県の沖は、右の図のように海面近くでは南から北上する暖流(対馬海流)が流れ、深い所では1年を通じて冷たい海水が広がっています。そのため、暖かい所に住む魚と冷たい所に住む魚がいます。中でも、佐渡沖にあるひょうたんぐり、向瀬などの漁場では魚のえさとなるプランクトンが多く、魚が集まりやすい場所として知られています。



新潟県の市町村別水産物水あげ量 (農林水産統計年報北陸版2018~2019年より抜粋)

沿岸の漁場では、底びき網・定置網・さし網・はえ縄・

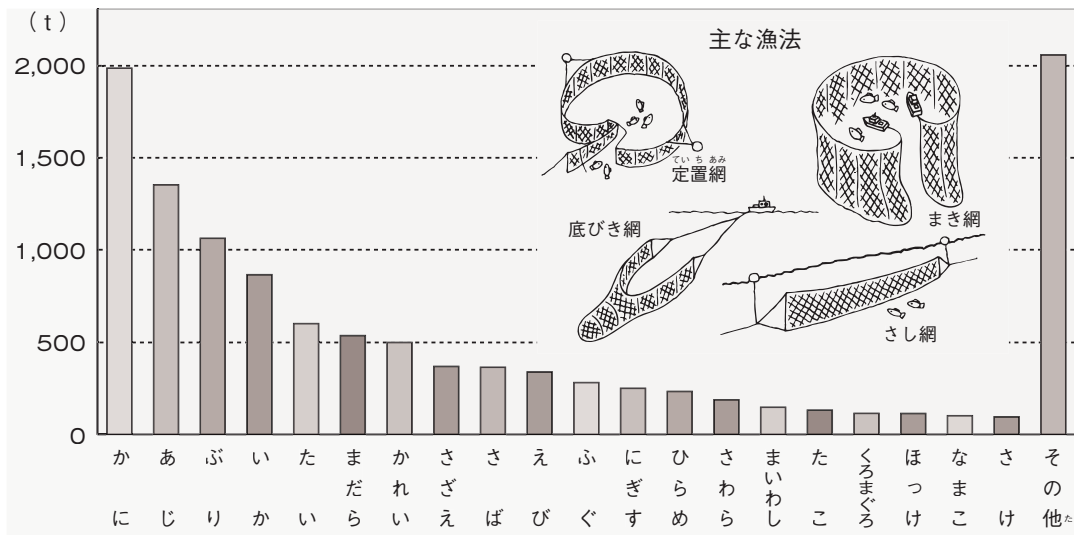
つりなどが、また沖合の漁場では、まき網・底びき網・つりなどが

行われています。佐渡島や粟島では、魚が網に入ると出られなくなるしくみの「大ぼう網」という大型の定置網が広く使われています。



大ぼう網漁 (粟島近海)

漁かく量で見ると、次のページのグラフのように、かに・あじ・ぶり・いかななどの水産物がたくさんとれます。

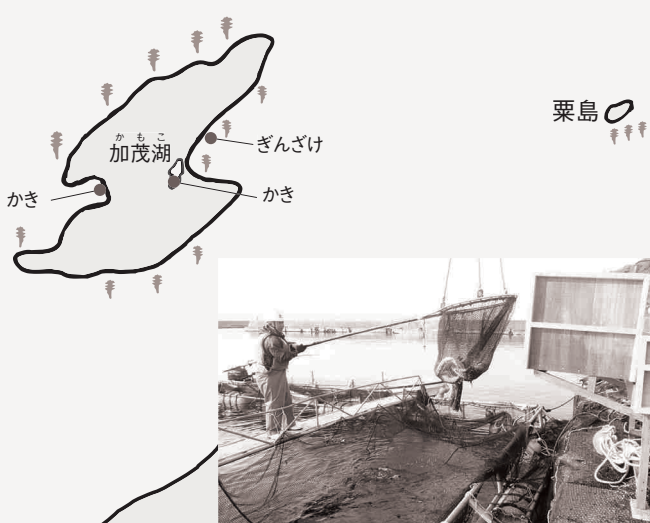


新潟県で漁かく量の多い水産物 (北陸農林水産統計年報2021~2022)

漁かく量の多い市は、新潟市・佐渡市・村上市・糸魚川市などです。交通の便がよい新潟市の中央卸売市場には、県内や県外の漁船がとった魚が集まってきます。そして、各地に出荷されていきます。近年、魚が少なくなっているため、「とる漁業」だけでなく「育てる漁業」にも力を入れています。例えば、佐渡島や粟島ではわかめや貝・魚の養殖が行われています。



かきの水あげ (佐渡市加茂湖)



🌲 わかめの養殖  
● 魚や貝の養殖



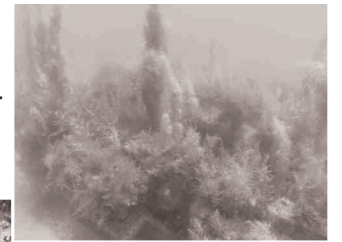
銀鮭の養殖場 (佐渡市和木漁港)

新潟県のおもな養殖漁業(海・湖) (新潟県水産課調べ)

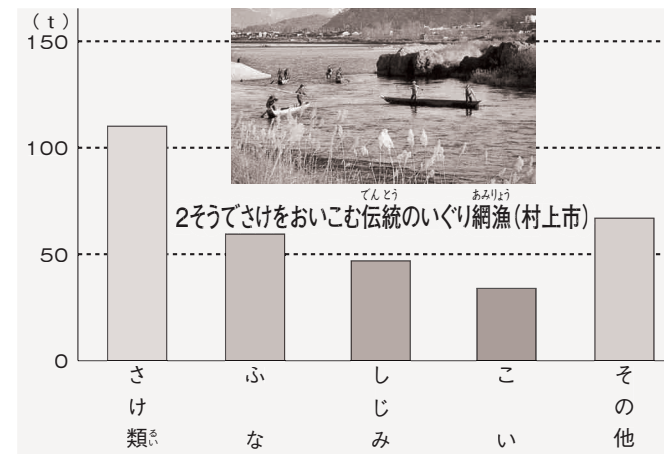
海には海藻がたくさん生えている藻場があり、小さい魚やサザエなどのすみかとなっています。佐渡島や粟島では、海の生き物を守るため、藻場をふやす活動をしています。

このほか、国や県・市町村は海の中に魚のすみか(魚礁)をつくり、漁師は小さい魚や貝をとらないようにするなど、水産資源の保護に力を入れています。

藻場の様子



相川沖の魚礁に集まるウスメバル



新潟県の川や沼でとれる魚 (農林水産統計年報 2021~2022年)

川などの漁業

川や沼でも漁業が行われています。とくに、信濃川と阿賀野川では、さけ・ふな・こいなどの魚がとれます。

さけやますの卵を育て、ふ化した稚魚を放流する仕事は、三面川・信濃川・阿賀野川など県内各地の川で行われています。村上市では、いぐり網漁という伝統的なさけ魚が有名です。



にしきごい品評会の様子 (長岡市山古志地区)

長岡市山古志や小千谷市では、にしきごいの養殖が行われています。

工業 5年「未来をつくり出す工業生産」

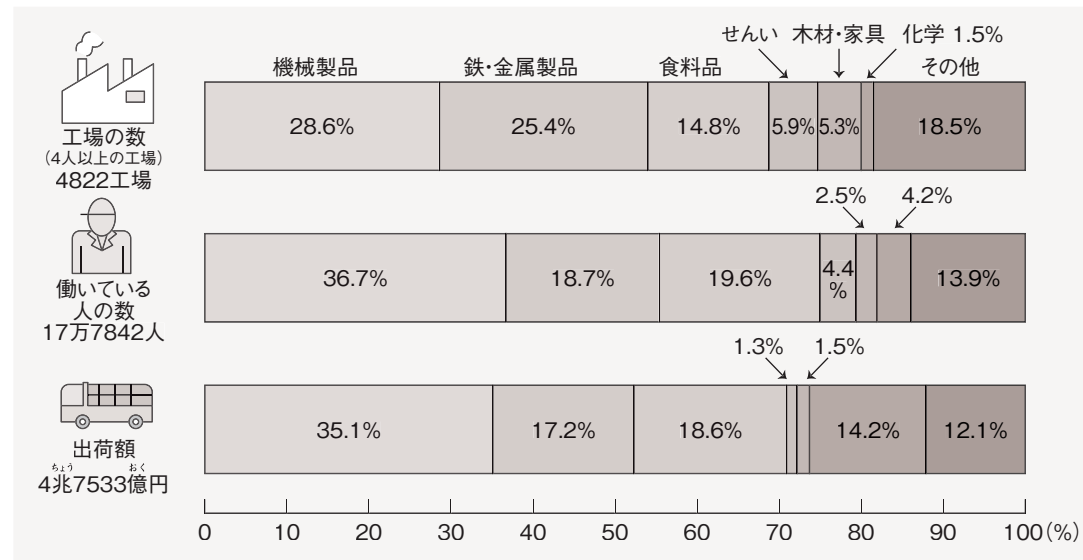
新潟県内には約5000の工場があり、約17万8000人が働いています。ほとんどの工場は、働いている人が300人未満の工場です。



新潟県の工業の種類別出荷額 (2021年 経済センサス活動調査(製造業))

出荷額が最も多いのは機械製品、次に食料品、鉄・金属製品の順になっています。1965(昭和40)年ころは、せんい製品・化学製品が多く生産されていましたが、1975(昭和50)年ころからは、機械製品・金属製品・食料品がふえてきました。

近年、外国からの輸入品もふえ、人々の好みも変わってきたことから、製品づくりにいっそうくふうと努力が求められています。



種類別に見た工場の数、働いている人の数と出荷額の割合 (2021年 経済センサス活動調査(製造業))

機械工業

新潟市では、電気機械製品やその部品、工作機械などの生産がさかんです。また、長岡市・柏崎市・妙高市・小千谷市・胎内市でもさかんです。

とくに、長岡市では、自動車やオートバイ用のメーターや表示ディスプレイなどの電気機械製品や電子部品を多く生産しています。



自動車のメーター

柏崎市では、自動車などのエンジンに使われるピストンリングという部品を多く生産しています。

金属工業

新潟県の金属工業は、三条市の作業工具などや、燕市の金属洋食器・ハウスウェアが有名です。



作業工具

三条市は、「金物のまち」として知られ、はさみ・ほうちょう・作業工具などを生産しています。

燕市は、日本を代表する「洋食器のまち」として知られ、スプーンやナイフなど製品の半分以上は外国へ輸出されています。

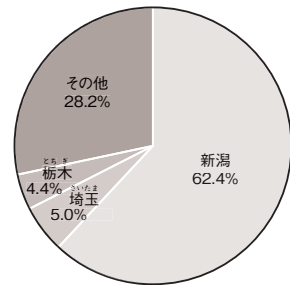
食料品工業

新潟県では食料品工業がさかんです。とくに米の生産を生かした米菓づくりがさかんで、出荷額は日本全体の半分以上をしめ、全国第1位となっています。できた製品は、全国各地に出荷されています。

また、清酒についても、兵庫県、京都府について全国第3位の生産県となっています。



新潟県でつくられている  
おもな米菓



米菓の出荷額の割合  
(2021年 経済センサス活動調査(製造業))

### 化学工業

新潟県の化学工業は、全国一の生産量をほこる天然ガスと石灰石などの原料やゆたかな電力などを利用して発展してきました。

上越市では水道やプールの殺菌消毒薬の原料となるソーダづくりや、苦い薬を飲みやすくする製品の生産がさかんです。また、新潟市では、天然ガスを生かした工業がさかんです。

### せんい工業

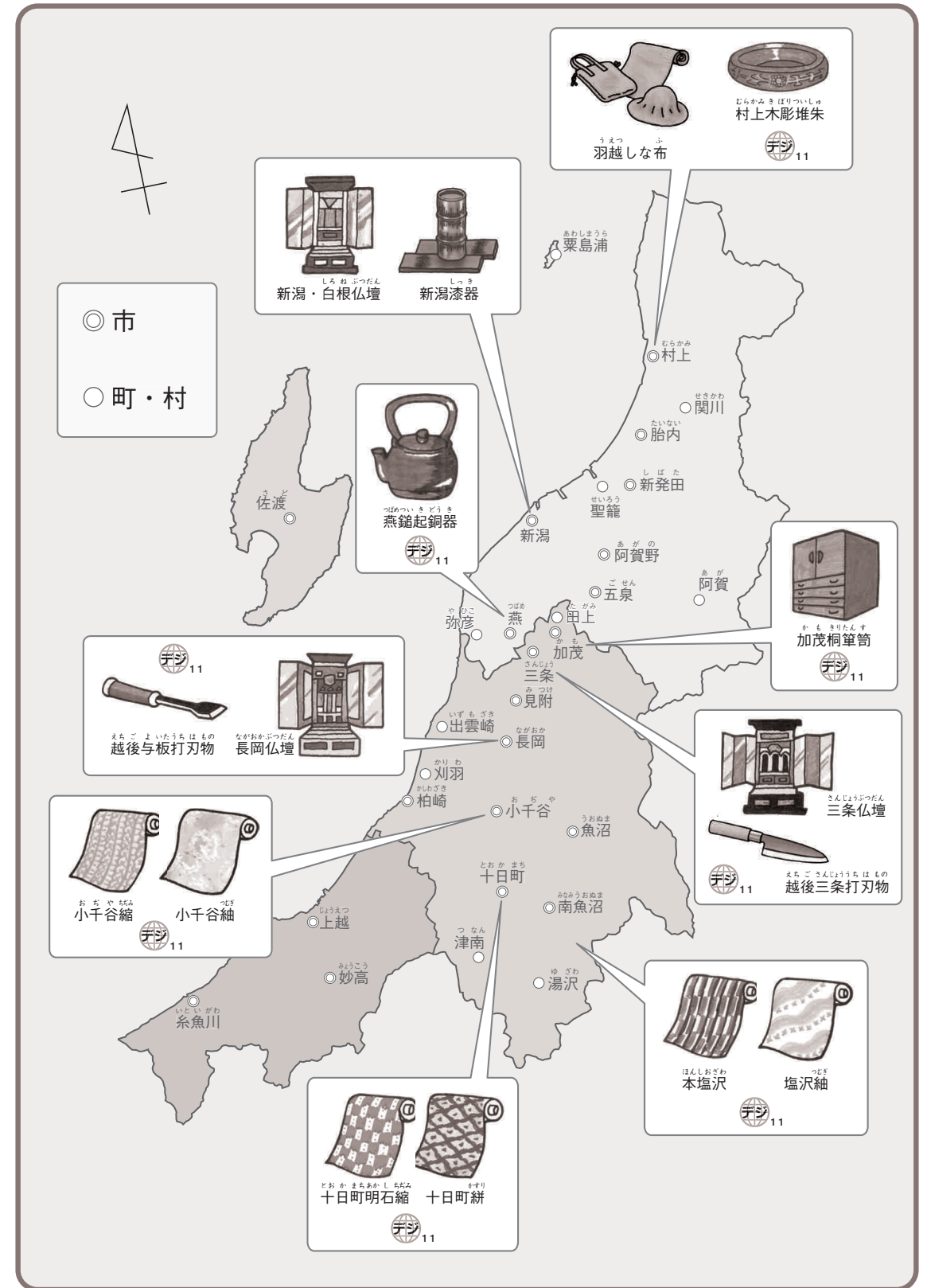
せんい工業は、1975（昭和50）年ころまでは、工場の数も働く人の数もふえていましたが、その後は、年々へってきています。

1950（昭和25）年代から生産をのばしてきたニットや合成せんい織物は、五泉市・見附市・長岡市栃尾・加茂市などで生産されています。新潟県のニット製セーターの出荷額は、全国第1位となっています。

### 伝統的な工業

伝統的な工業とは、古くからの技術によって品物をつくる仕事をいいます。主に日用品が多くつくられ、伝統的工艺品とよばれているものもあります。国から指定されている伝統的工艺品の数が多い都道府県は、第1位が東京都の18品目、第2位が京都府の17品目です。新潟県は沖縄県と同じ16品目で、第3位となっています。

29ページの図のとおり、新潟県では、それぞれの地域の歴史や特色を生かした伝統的工艺品がつくり続けられています。



国指定の伝統的工艺品（新潟県）